慢性関節リウマチにおける股関節破壊の検討

山口大学整形外科

田 中 浩・城 戸 研 二
峯 孝 友・脇 阪 敦 彦
東 良 和・河 合 伸 也

Studies of Hip Disease in Rheumatoid Arthritis

Hiroshi Tanaka, Kenji Kido, Takatomo Mine, Atsuhiko Wakisaka,
Yoshikazu Azuma, and Sinya Kawai

Department of Orthopedic Surgery School of Medicine, Yamaguchi University, Ube

Hip radiographs were examined in forty patients with rheumatoid arthritis who had total hip arthroplasties. The patients' ages ranged from 37 to 83 years.

Radiological appearances of hip involvement was classified into five types as described by Lowe et al. Radiographic evaluation showed that protrusio acetabuli and loss of joint space were seen in 45% and 28%, respectively. Types of hip involvement correlated with the serum level of CRP and type of joint destruction (LES, MES, MUD), but not with disease duration, maintenance dose of corticosteroids and JOA score. 70% of the patients with protrusio acetabuli were MUD type and most with loss of joint space were LES or MES type.

Key words : Rheumatoid Arthritis (慢性関節リウマチ), Roentgenology (X線学)

は じ め に

RAにおいて股関節が侵される頻度は比較的少ないが、滑膜炎の他、骨粗鬆、荷重等の要因も関与し多彩な病像を呈する。今回THAを施行した症例を対象として、RAの病像、経過および股関節破壊のパターンについて検討した。

対象および方法

対象は、RAに対してTHAを施行した症例、40例52関節で、性別は、女性38例、男性2例で、手術時年齢は、平均59.8才であった。これらの症例に対し、RAの罹病期間、股関節痛の出現時期、リウマチの活動性、関節破壊のタイプ、および、日整会変股症判定基準による臨床評価について調査した。股関節破壊の

X線分類はLoweの分類¹⁾を使用した。さらに、X線分類と他の因子との相関について検討した。

結 果

RAの分類は、ステージ3および4が約半数ずつであり、クラス3が半数以上にみられた。また、ムチランス型および多関節破壊型の関節破壊がほぼ同数であった。RAの罹病期間は、平均18.2年と長期経過例が多く見られたが、股関節痛出現よりTHAまでの期間は、平均2年であり、比較的短期間に関節破壊が進行していた。血液検査所見では、炎症自体は比較的落ち着いた例が多く見られた。ステロイドは約7割に使用されており、平均使用量は3mgであった。臨床評価としての日整会点数は、35点で、特に歩行能力が著明に障害されていた。X線所見は、Loweの分類を使

図1 X線分類と病型分類との関連

LJは、少および多関節破壊型、PAは、ムチランス型に多くみられた。

用し分類したが、破壊が内方ではなく上方のみに進行するタイプがみられ、これを新たに proximal type とし、また、collapse of femoral head のうち、RA 様の変化がみられず明らかに大腿骨頭壊死の所見を呈するものを aseptic necrosis として別に追加した。X線分類の比率は、protrusion acetabuli (以下 PA) および loss of joint space (以下 LJ) がそれぞれ 45%、28%と多くみられ、これらの2つのタイプで全体の約7割を占めていた。また、PA タイプの protrusion distance は、1 から 15 mm、平均 5.1 mm であった。X線分類と病型分類との関連についてみると、PA、Charcot-type joint はほとんどムチランス型であり、LJ は、半数以上を多関節破壊型が占めていた。X線分類と各因子との関連についてみると、PA は LJ に比べ、CRP が有意に低く、リウマチ因子も低い傾向がみられた。また、有意な差はないものの、PA に、RA の罹病期間や股関節痛から THA までの期間が長く、ステロイド使用量が多い傾向がみられた。

考 察

RA における股関節破壊の X線分類についてこれまでに様々な報告²⁾⁻⁴⁾ がなされてきたが、今回、簡単に股関節破壊の過程にみられる特徴を列挙した Lowe の分類を使用した。一般的に RA において股関節が侵される頻度は、約 20%前後で、それらのうち PA

となる頻度は、約 15%であるが¹⁾⁴⁾、THA の症例では、やはり頻度が高くなり²⁾、今回の調査においても 45%にみられた。PA と LJ の比較検討では、PA はムチランス型、LJ は少および多関節破壊型に多くみられた。また、PA は LJ に比べ、RA の活動性が低い傾向がみられたが、これは、PA の症例が、RA の罹病期間が比較的長く burn out したようなものが多いことによると考える。PA となれば、手術も困難となり、手術成績も不良で、諸家が指摘するようにここまで進展する前に手術をすべきである。しかしながら、現実では、今回の結果のように PA に至って手術となることが多く、これには、重症の RA では、ADL の低下や、他の関節痛のため、LJ の時期に股関節痛を自覚しにくく、結果として THA のタイミングの遅れが考えられる。今後は、LJ から PA へ至る過程の詳細な観察や、進展を予測する因子についての検討が必要であると考えられる。

ま と め

- 1) RA40 例 52 関節に対し股関節破壊のパターンについて検討した。
- 2) PA および LJ がそれぞれ 45%、28%と多くみられた。
- 3) LJ は少および多関節破壊型、PA はムチランス型に多くみられた。
- 4) PA は LJ に比べ、RA の活動性が低く、RA の罹病期間、股関節痛から THA までの期間が長い傾向がみられた。

参 考 文 献

- 1) Glick, E. N. et al.: Rheumatoid arthritis affecting the hip joint. Ann. Rheu. Dis., 22 : 416-423, 1963.
- 2) 勝部定信: 慢性関節リウマチにおける股関節の X線学的ならびに組織学的研究。日整会誌, 64 : 378-391, 1990.
- 3) Lowe, L. W.: Surgery of the Hip Joint. Lea & febriger, Philadelphia, 597-609, 1973.
- 4) 種田陽一, 他: 慢性関節リウマチの股関節病変の自然経過。関節外科, 8 : 1301-1308, 1989.